

会員と千葉県連盟をつなぐ

# ちばニュース

2025年 9月号



**千葉県勤労者山岳連盟**

Chiba Workers Alpine Federation

2025年 9月 1日発行 通巻388号

暑さ寒さも彼岸まで…  
でも、まだまだ続きそう、この暑さ…  
体調を整えて山へ…

## 9月号 目次



ページ

- 02…目次・投稿フォーム書式案内・表紙写真説明
- 03…山行報告1：金毘羅山（市川山の会）
- 05…山行報告2：北アルプス 蝶ヶ岳と西穂丸山（市川山の会）
- 07…山行報告3：フンザ&ナンガパルバット周遊トレッキング②（東葛山の会）
- 11…山行報告4：フンザ&ナンガパルバット周遊トレッキング③（東葛山の会）
- 14…山行報告5：フンザ&ナンガパルバット周遊トレッキング④（東葛山の会）
- 18…**行事案内1**：2025 オンライン講習会（第3回）
- 19…**行事案内2&3**：第18回ふれあいハイク、第24回ウィークデーハイク
- 20…予定表（9月・10月）

p.10 : **ミニ情報** → 『各委員会専用 Zoom ミーティング ID 設定』  
『全国自然保護講座 in 青森』  
『韓国:紅葉ハイキング説明会』

個人情報があるので取り扱いには注意して下さい。

『**山行報告**』や『**行事報告**』などの投稿をお待ちしています！

その際の『書式』は、可能な限り次の通りでお願いします。

**ワード、A4 縦、横書き、MS 明朝、12 ポイント、余白:上下左右各 25mm**  
写真などを挿入しても、別にお送りいただいても結構です。

『**表紙用写真**』も募集しています！（写真説明を添えてください）

毎月 **20 日頃**を目処にメールでお送り願います。

<送付先> **機関誌委員会:安彦秀夫 mt25hm4abichan49@gmail.com**

### <表紙写真説明>

市川山の会では、7月29日(火)～31日(木)の2泊3日で、恒例のバスを利用して、2コースに分かれて、北アルプスの山を楽しみました。

『蝶ヶ岳コース』で、参加者全員が感動した『槍ヶ岳』です。

詳細は報告文で楽しんでいただきたい…と思います。(編集子)

# 金毘羅山（468m）・南沢あじさい山（310m）・琴平神社山行記 6月29日（日）

市川山の会 金子律子

久しぶりに早起きして家を出ると、ちょっと涼しさが感じられた。西船橋に集合して大型バスで出発した。（6:10）

今回の参加者は、男性10人、女性17人。残念ながら直前に体調を崩して参加できなかった方もいた。

天気予報通り、空は雲一つなしの晴天。山歩きが一層楽しみになる。一人ずつあいさつした後、Mさんより今日のコースやあきる野地区の説明があった。

今回は参加者の要望になるべく応えるため、三つのコースを用意してくれた。結果的には、1班金毘羅山コースと2班あじさい山コースの、二つになった。いつもながらその配慮には感服するばかりである。

バスは渋滞もなく順調に走り、8時に武蔵五日駅に着いた。2班（16人）が下車した。十里木には8時10分に着き、1班（11人）が下車した。

いよいよ金毘羅山に向けて出発。（8:30）

秋川の橋を渡り少し歩くと、お店「一穂のこんにやく」（いっすい）があった。店をちょっと覗いたら、トウモロコシをふるまってくれた。朝採りのもので、とても甘かった。感謝。（8:45）

登山口から山道に入るといきなりの急登。おまけにぬかるんでいるため、転ばないように気を付けて一步一步登っていく。スギ、ヒノキの道はあまり変化がなく単調だが、日陰で涼しい。湿気はなく爽やかである。徐々に道端に、アセビ、エビネ、フタリシズカ、モミジイチゴ、ムラサキシキブなどが現れた。もちろん花は終わっているが想像するのも楽しい。

不二見台を過ぎて少し進むと、木々が刈り取られ、展望が開けている場所に出た。

眼下には、あきる野の町や点在する山々、遠くには、西武ドームやよみうりランドなどが一望できた。今日初めての展望で感激もひとしおである。足元にはイブキトラノオ、キイチゴなどが見られた。まもなく、あじさい山の西口に到着。ちょうど見頃のアジサイを愛でることができた。（10:20）

登山道に戻り歩いていると、金毘羅山は通り過ぎてしまったのではないか…とい



う疑問がわいてきた。辺りを見回すと、Nさんが金毘羅山の分かりにくい標識を見つけてくれた。坂を登っていくと、金毘羅山にたどり着いた。(10:36) 山頂の表示札が無ければ普通の杉林だった。

次に見えてきたのが巨大な岩。祠のようなものが祭ってあるので、天狗岩だと思い込んだ(表示札がないのは気になったが…)。

さて、高台から降りるときに問題発生。絶壁の岩を降りなければならない。両手で岩をつかむと、足場が見えないのである。リーダーのMさんが一人ひとりに足をどこに着くか指示してくれた。本当に助かった。

やっとの思いで下の道まで下りて視線を上げると、またまた巨大な岩が現れた。もしやと思い、岩の前まで行くと案の定、天狗岩だったのである。でも、私たちは間違いを半分認めたくないの、一つ目の岩は第二天狗岩と勝手に命名しました。(笑)

天狗岩の話題で盛り上がっているうちに、琴平神社、金毘羅公園に到着。(11:04) 緩やかな傾斜地で昼食を済ませて公園を出発した。(11:50)



参道に沿ってアジサイが植えられていた。南天も多くみ見られた。今日一日、山道を頑張って歩いてきた私たちへのご褒美のようで嬉しかった。

町の中に出ると一気に猛暑に見舞われた。路線バスに乗り、十里木に着いた。(13:20) 瀬音の湯では、汗と疲れを流し、つるつるの露天風呂にゆっくり浸かった。

今回も、ちょっと面白いエピソードがあり、楽しい登山でした。企画してくださった方々有難うございました。

## 北アルプス

### 『蝶ヶ岳』、『西穂丸山』、『上高地』を訪ねる旅

7月29日~31日

#### ★ 一般組

蝶ヶ岳登山参加者一般組 12人（男性4人、女性8人）

市川山の会 新田純子

**1日目** 西船橋を6:10に出発。今回の山行きの想いを一人一人話し、花のビデオ等を見ながら上高地に着いたのは12:15。河童橋で全員の集合写真を撮った後、一般組とスロー組に分かれて、一般組は12:30に出発。

少し歩いた辺りで昼食をとり、明神池、徳沢を経て4時間の行程。横尾山荘に17時着。途中木に登っているサルを見かけ、クガイソウやいろいろな花を見ながら歩いていった。すると、思わず目の前に、草むらから、うんと小さいねずみが現れしばらくじっとして何かをもぐもぐしている様子でした。目がまんまるでキョロンとしていて、とっても可愛い！あとで調べると、カヤネズミではないかと思われる。日本一小さいネズミで絶滅危惧種にもなっているというので、さらにびっくりでした。

**2日目** 朝の光で穂高が真っ赤に染まるモルゲンロートが見られたのは幸運でした（ボーっとしていた私は見そびれました）。

朝の光、空気がさわやかな中で体操をして7時に出発。

標高差1122m、コースタイム3時間20分という、私たちにとっては驚く標高差ですが倍の時間をかけてもいい…という計画なのでゆっくり歩き始めました。

途中槍見台や、ところどころで槍、穂高を見ながら登っていきました。ゴゼンタチバナやギンリョウソウなどもありました。

頂上近くの蝶ヶ岳三角点に着いたのが11:50！着いた途端に歓声！前穂、奥穂、北穂、正面にキレットをはさんで槍まで3km級の山がずらりと並び見事なこと！ゆっくり景色を見ながら昼食をとってから蝶ヶ岳まで行こうとすると、ライチョウが三羽の子どもを連れて白い花をつついていました。しばらく私たちを先導するように一緒に歩いたあとケルンの上に乗ってしばしポーズ。

三角点に戻ると2班が到着していた。1班は一足先にヒュッテに向かう。

広々としたハイマツと石の山頂でコマクサなど写真を撮りながら蝶ヶ岳ヒュッテ14:30到着。それまで雲に隠れていた常念岳もきれいに姿を現した。期待していた夕日は雲に隠れてしまったが、雲の向こうから光の帯が長く伸びて幻想的でした。夜の星空、天の川も見えました。

**3日目** 3:30起床。5:00に出発。最高点で写真を撮り下山開始。すぐにお花畑があり、ミヤマダイコンソウ、ツメクサ、シオガマ、チングルマの綿毛、いろいろなたくさんのお花が咲いていました。ゆっくりする時間はなく、かわいい可憐な花を愛でながら下りていき、妖精の池ではサンショウウオの赤ちゃんを発見。

6:17長堀山からひたすら徳沢目ざしてカニコウモリの花の中を下りていきました。徳沢9:35、明神館でソフトクリームを食べて元気を出して河童橋に11:40到着。

怪我、事故もなく無事に下山できました。

いくつもの計画、小屋の予約、たびたびの人数変更など、お世話になり実現した山行。感謝感謝です。この先もずっと心に残る山旅でした。



## ★ スロー組

市川山の会 池原登美子

**7/29 (火)** 西船橋から上高地までバスはスムーズに進んだ。河童橋で一般組を見送り、スロー組は岳沢をバックに記念写真。昼食後、ウェストン碑見学等。上高地から新穂高温泉民宿たきざわへ。豪華な夕食で明日の山に備えた。

**7/30 (水)** 晴天 新穂高ロープウェイ 1、2 を乗り継ぎ展望台到着 AM9:30。焼岳、槍ヶ岳、笠ヶ岳のアルプス連峰がくっきりと見えた。

展望台出発 10:05。整備された遊歩道からすぐ山道に入る。最初は緩やかに、その内高度と大きな岩石が増してくる。最初は足が上がっていたがうっかり小石の上に登山靴が乗っかり転んでしまった。ズルズルと下まで行きそうなのを松永さんが止めて下さる。石を掴んだり木の根を掴んだりしながら登る。いつまで続くのだと上を見ると、樹林帯の中とぎれることなく岩石を乗せた一本道が続いていた。足が上がらないのでナメクジのような遅さだ。

後ろから大勢の登山者が追越して行く。あるオジサンが「そんなじゃ夜になっても着かないよ」と言い残して行く。「バカにしないでよ~」と大声を出してみるが、その通りだ。あまりの遅さに英美さんが迎えに来てくれる。ザックを持ってくれたので、夜にならずに西穂山荘に 14:00 着く事ができた。

スロー組の仲間は丸山にも行って来てのんびりと過ごしていた。

テント場の崖にはハクサンフウロウやアキノキリンソウ等が風に吹かれている。小屋からは焼岳が一層大きく見えていた。皆さんは松永さんが用意してくれた天空の野点で、和菓子やパンをいただき楽しんでいた。疲労困憊の私は食べれず、夕食も半分残し早々に就寝。

**7/31 (木)**、AM6:45 私のみリーダーと出発。後発組は 7:00、すぐ追越された。

ロープウェイ西穂高口着 AM10:00、新穂高温泉口終点 10:30。何と!女性陣待っていてくれて拍手までしてくれた。穴があったら入りたい。

貸切バスで上高地へ 11:50 到着。13:00 一般組を乗せて立寄り温泉へ出発したのでした。松永リーダーとスロー組の皆様、怒ることなく待っていて下さり有難うございました。



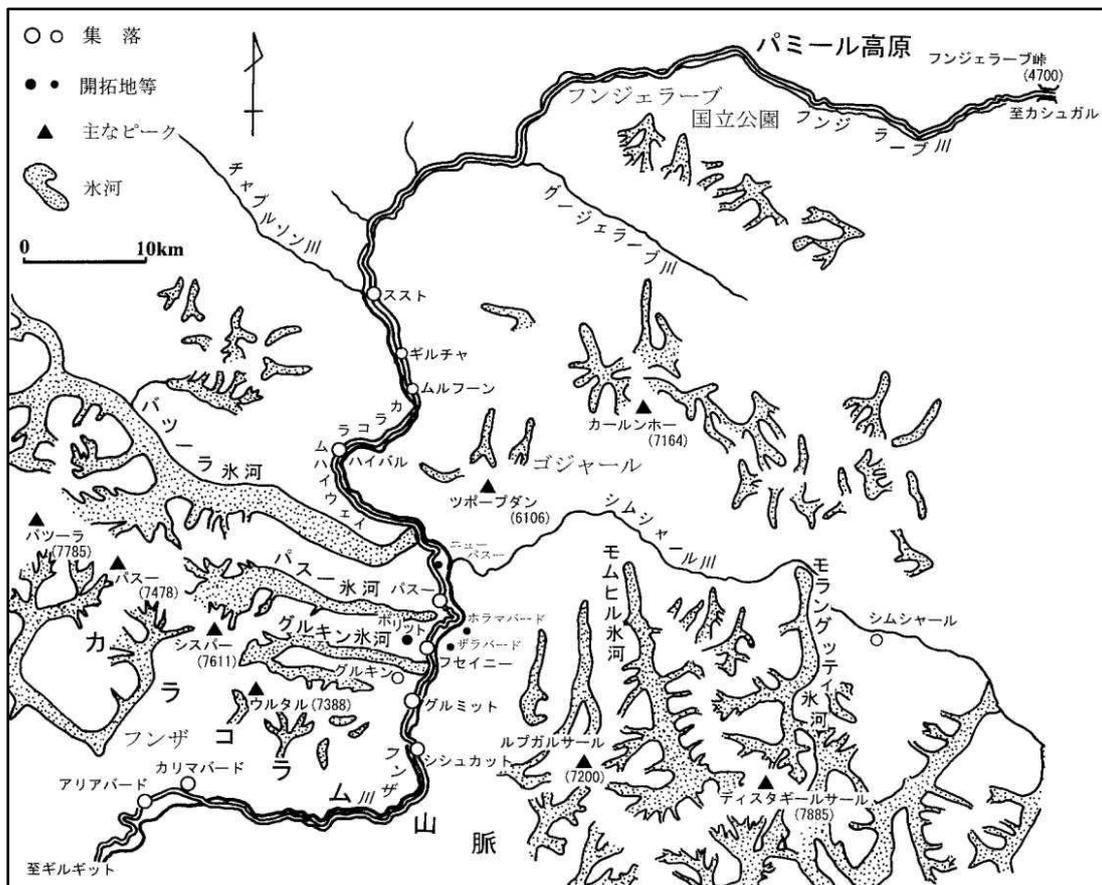
## 2025 フンザ&ナンガパルバット周遊トレッキング その2

東葛山の会 林 孝和

**6月23日** 朝4時に起きて、前日の夕暮れに見たフンザ周辺の山々が朝日に染まる姿が見たくて暗い中をドゥイカル山の頂上まで登る。朝日に照らされるラカポシ山7,788m、ディラン7,266m、ウルタル7,388m、スパンティーク7,027m、フンザピーク、レディーフィンガーなどが美しかった。



朝食後7:30にEagle's Nest Hotelを出発、カラコルム・ハイウェイ KKH を北上して、中国国境のクンジュラブ峠 4,880m を目指す。KKH はパキスタンと中国政府によって1958年に建設が開始され、20年後の1978年に完成した古のシルクロードに沿って走り、パキスタンと内陸アジアを結ぶ基幹道路である。多くのパキスタン人および中国人労働者が、建設中の地滑りや転落事故で死亡した。全長1,300 km。周囲には6,000 ~ 8,000m級の山々が連なり、壮大な景色が見れる。フンザからクンジュラブ峠までのパキスタン北部ゴジャール地区の地図を示す。



“kinu Kutto” と呼ばれる旧シルクロードは、かつて徒歩道や荷駄馬の道として利用された崖っぶちに沿って見える道路です。



2010年1月4日に、ブンザ地区の中心都市カリマーバードの東12キロメートル付近で大規模な地すべりにより天然ダムが発生した。インダス川の支流ブンザ川がせき止められてできたこのダム湖、アッタバード湖に KKH が水没してこの付近が暫く通行止めとなった。中国の後押しによって 2015 年にトンネルなどの復旧工事が完了した。現在では湖周辺にはホテルやレストランが建てられ水上スキーや水上バイクが楽しめる重要な観光資源となっている。



アッタバード湖でトイレ休憩した後は、9時半頃パサーで止まってトポップダン山(6,016m)の雄姿を背景に記念写真を撮る。トポップダン山は大聖堂のように見えるため、カテドラル(大聖堂)とも呼ばれている。別名パサーコーンズともいう。



さらに KKH を北上し、12時過ぎにクンジュラブ峠 4,880m に到着。急に高地に登ったので高山病にならないようにゆっくりと中国国境まで歩いて記念写真。こちらでは日本人はまだ珍しいのか、「一緒に写真を…」と頼まれることが多い。地元のお母さんに頼まれて娘さんとツーショット。

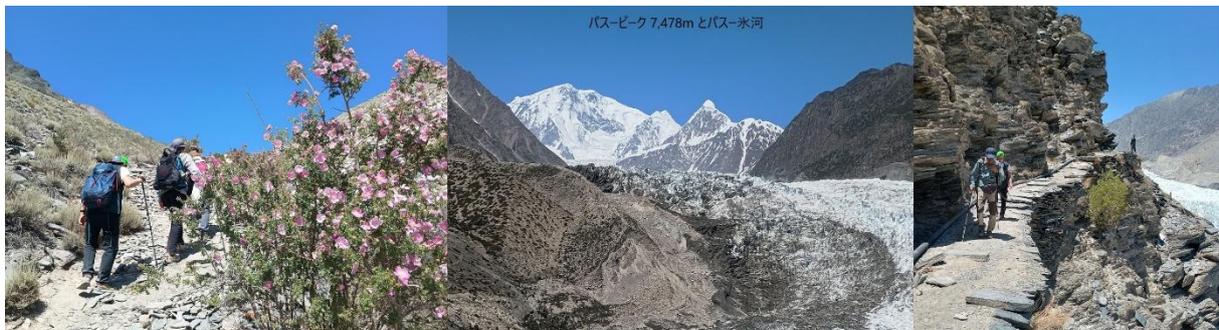
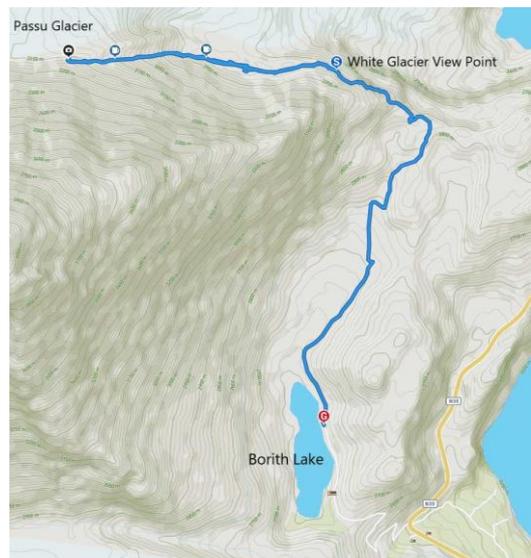


1時ころクンジュラブ峠から下り始める。昨年のツアーではアイベックスも見られたそうだが、今年は残念ながらお目にかかれなかった。

3時前に途中の街スストで昼食を摂る。この辺は中国人が多く来訪する場所なので期待してチャーハンを頼むが、一口食べてもう結構というお味であった。その夜はカテドラルが目の前にすぐ見える Passu Ambassador Hotel に泊まる。すぐ近くの池でのカテドラルのリフレクションが素晴らしかった。



**6月24日** 早朝に朝日に照らされるカテドラルを見てから朝食。前述の地図に示すように、この辺りの KKH の西側には北からバツラ氷河、パサー氷河、グルキン氷河という三つの氷河が並行して流れている。この日は、真ん中のパサー氷河を見ながら南側を登る。専用車のミニバスでボリス・レイクの脇を通って White Glacier View Point まで行き、8:50 歩き始める。最初は氷河壁の脇を登るが、その後は氷河から離れた凹地を登る。この辺りにはピンクのロサペンデュリナ（アルパインローズ）が多く咲いていて美しい。10:20 頃に再び 3,188m の氷河壁の上に到達する。ここからはパサーピーク 7,478m がよく見える。



午後1時前には下山して、ボリス・レイクの下で標高2,600m地点で、昨年K2で亡くなった平出和也氏と中島健郎氏が2017年夏に北東壁未踏ルートに登攀してピオレドール賞を受賞されたシスパーレ 7,611m の美しい姿をバックに記念写真を撮ってから、アッタバード湖脇の FAMREE Resort で昼食を摂る。このレストランの料理長はパキスタンの大使館でも働いたことのある有名コックで、ここの料理は間違いなく今回の旅行で最高であった。



昼食後、アリアバードの街でドライフルーツなどの土産を買う。フンザ名産のドライアプリコットの値段は1kgあたり約PKR 1,000(500円)と日本の1/5から1/10と格段に安い。またマンゴー、チェリー、メロン、スイカなどの生フルーツも安くて美味しい。

アリアバードからは最初の写真に示すようにラカポシ山 7,788m の山体全体が望めた。多くの山々が連なるパキスタンでは近くの山が邪魔したり、山頂が雲に隠れたりして、このような事は稀である。

その後、KKH のタショット対岸付近に停車して道路わきの片麻岩から分離したガーネットの結晶を拾ってからミナピン村へ向かう。

17:30 宿泊地の Alpine Resort Minapin 到着。このホテルにはミネラルショップが併設されていて、これから向かうラカポシ BC やスカルドゥの水晶、アリアバードの上部 3,040m の急斜面にあるルビー鉱山のルビー、Haramosh のトルマリンなどを比較的安価に購入できた。



(一部、中山さんの写真も使わせて頂きました。)

## 『各委員会専用 Zoom ミーティング ID 設定』

各委員会では、これまで個人的な ID (無料) でミーティングを開催していましたが、『40 分間』という制約があり不便を感じていたと思います。県連契約の中で、各委員会専用の ID を設定し既に利用が始まっています。時間制限なく何度も利用できます。設定済みの委員会は、『教育遭難対策委員会』『ハイキング委員会』『組織委員会』です。尚、『海外委員会』と『機関紙委員会』は、先行して実施していました。

## 『全国：自然保護講座 in 青森』

9月27日(土)～28日(日)に開催されます。オンライン(Zoom)参加もできますので、是非、全国の仲間と、全国各地で問題になっている自然保護について情報交換をしてみませんか? 詳細は、『2025 ちばニュース 8月号』を参照)

## 『韓国：紅葉ハイキング説明会』

9月19日(金)午後7時～9時に、『鎌ヶ谷市中央公民館』で、旅行会社の担当者を迎えて説明会を開催します。

8月17日(日)に参加申込みを締め切り、参加者15名/4会(男性3名、女性12名)になりました。既に、旅行会社から『案内』などの資料が各参加申込者に届き、内金の振り込みも全員が済んでいます。

説明会では、今回のハイキングコースや韓国事情(入出国手続き、交通、買い物、食事、水、慣習)などの基本的なことや、ハイキング関連装備などをどのような方法でパッキングしたらよいか…などを説明していただきます。

また、実際に準備をしてみて、新たな疑問・不安などを感じることもあり、出発1週間前頃に Zoom で『なんでも Q&A ミーティング』を開催したいと考えています。

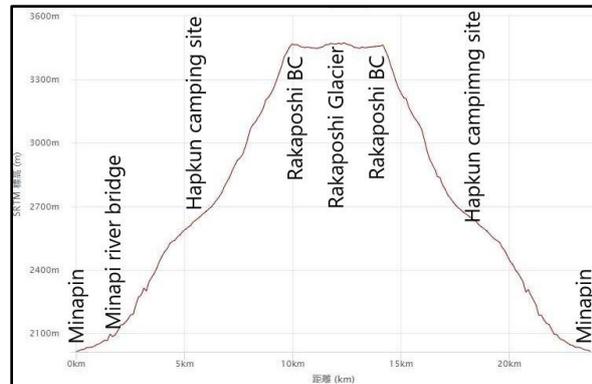
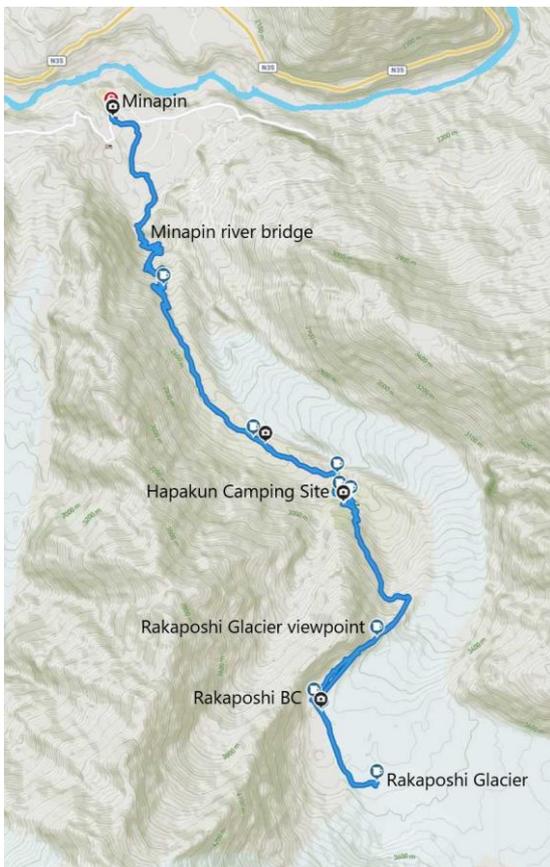
## 2025 フンザ&ナンガパルバット周遊トレッキング その3

東葛山の会 林 孝和

**6月25日** これから3日間ラカポシ B.C. へのハイキングとなるため、不要な荷物をホテルにデポして、朝食後 6:45 出発。ミナピン村ではアプリコットの実が実っていた。ミナピン氷河からの濁流が流れるミナピン川の橋を渡ると急登が始まる。少し登るとウルタル (7,388m) が見えてくる。



ミナピンから見たウルタル右がII峰、中央がI峰。左はフンザ峰



炎天下のため少し夏バテ気味。この後、樹林帯に入り一息つく。樹林帯ではエーデルワイスやキキョウ科ツルニンジン属の高山植物などが見られた。最後の急登を抜け、11時半ころ草地のキャンプ地ハパクン (2,700m) に到着する。昼食時にフンザで買ったチェリーの残りを食べたが、キャンプ地のあまりきれいでない小川の水に浸して冷やしたのが悪かったらしく、この後、ほぼ全員が細菌感染からひどい下痢に悩まされる事となる。キャンプ地の対岸の山には地すべり地帯があり、たびたび轟音と共に崩れていた。



**6月26日** 朝食後6時半過ぎに出発。急登を進むとチョウノスケソウやフウロソウ属のゲラニウム、ヒマラヤトラノオ、キバナオウギ、ワイルドタイム、ロサペンデュリナ(アルパインローズ)などの高山植物が美しい。



氷河リッジの上の絶景ポイントに出ると、雄大なミナピン氷河が目の前に広がる。氷河の先にはディラン 7,266m やラカポシ 7,788m が聳え立つ。



ビューポイントから氷河の絶景を左に見ながら崖沿いの道を進み、9時半ころに草地のキャンプ地ラカポシ・ベースキャンプ(3,450m、別名タガファリ)に到着する。このキャンプ地は写真に示すように縦に長く、中央に小川が流れていて、氷河とはモレーンで隔てられている。キャンプ地に着くとポーター達が既に調理テント、食事テント、トイレテントの設営を始めていた。トイレは地面に穴を掘って足場の石を置いただけのものである。



キャンプ地の草原に達するとすぐに右手にズリが見える。後から訪れると上方から若者が下ってきた。彼らはマウンテンハーブを採りに来たこのキャンプ地を所有するミナピン村の青年たちで、彼らによると、ここはNephrite 軟玉を採掘する鉱山だそうである。ここでは軟玉中のガーネット、Fucksite クロム雲母、Chloritoid 硬緑

泥石などが採集できた。こことは別にキャンプ地の上方数百 m には水晶を掘っているペグマタイト鉱山がある。



昼食の後、キャンプ地東側のモレーンの丘を越えるディラン BC (3,650m) へと続くトレイルをたどりミナピン氷河までハイキングに出かける。

氷河リッジではピレオギクの一種や、ホッキョクヤナギ、キバナオウギ、ヤナギランなどの高山植物が見られた。



ミナピン氷河では氷河から聳え立つディラン 7,266m やラカボシ 7,788m の雄姿を眺め、大きく口を開けたクレパスをのぞき込んだりして楽しめた。



ベースキャンプに戻ると、Oさんが過労と脱水症のためか悪寒を訴え、応答も朦朧としてきたため、羽毛服を着せて暖かくし、リーダーの中山さん、現地ガイドのイッサさん、Kさんが付きっきりでマッサージなどを行い看病にあたる。幸い暫くすると体調も戻ってきた。

**6月27日** 朝食後 7:10 出発。往路を 4 時間かけてミナピン村まで下る。昼食後マイクロバスで北部山岳地帯の中心地ギルギットへ。パキスタンの正月にあたる 10 日間のムハッラムのために街には多くの人が繰り出し、道路は通行止めや交通規制が行われていた。街でフルーツや薬を買う。

現地の下痢の薬 Cyrocin (シプロフロキサシン塩酸塩) は、感染性の下痢に効く合成広域抗菌剤で、これを飲んだ人は下痢が改善できたということでした。効かない正露丸を飲み続けた私は下痢が続き、回復したのは結局帰国後 1 週間後でした。

17 時ころ街で最高レベルの Avari Xpress Hotel に到着する。

## 2025 フンザ&ナンガパルバット周遊トレッキング その4

東葛山の会 林 孝和

**6月28日** 朝食後 8:17 ホテル出発。9:10 インダス川とギルギット川の合流地点の「三大山脈ジャンクション」の展望台で休憩。この2つの川は地質学的な境界を成し、南のナンガパルバットを有するヒマラヤ山脈、インダス川とギルギット川の間位置するカラコルム山脈、その西奥に位置するヒンドークシュ山脈の合流地点にあたります。展望台にはこの三大山脈を表すモニュメントが設置されています。



10:40 ライコット橋に到着。ここにはジープに乗り換えタトゥ村まで行くため、多くのジープが駐車している。不思議なことに多くのデコトラも駐車していた。パキスタンではデコトラを多く見かけた。1980年代後半から、パキスタン政府と進取的な個人が海外でトラックアートの展覧会を組織し始め、2000年代初頭までに、このトラックアートはパキスタンの活気に満ちた「民俗芸術」としての地位を確立しました。

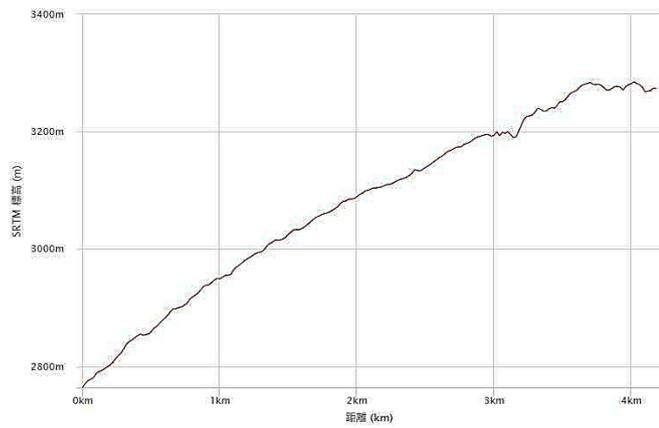
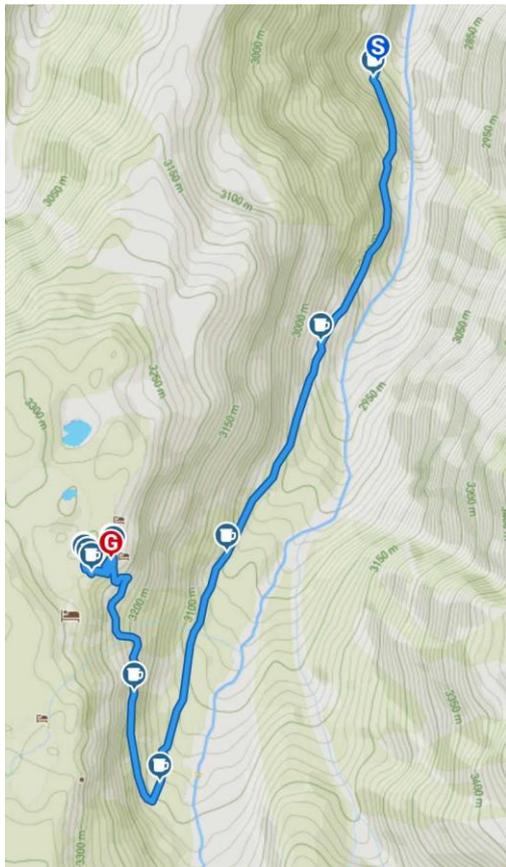


ジープでのタトゥ村フェアリー・ポイント (2,666m) までの断崖絶壁に作られた道路は、少し運転を誤れば谷底まで真っ逆さまという道で大変スリリングなドライブでした。13時にフェアリー・ポイント到着。



タトゥ村の Fairy point hotel で昼食後、目的地のフェアリー・メドウへ向かって歩き始める。18時ころ「妖精たちの牧草地」という名のように美しいフェアリー・メドウ (3,300m) へ到着。アングロ・ヌビアン種のヤギが迎えてくれ、草地ではパキ

スタンの女学生たちがライコット氷河を背景に踊っていた。



泊まった山小屋は、前庭からナンガパルバットをはじめ 6,000m~7,000m の高峰群とライコット氷河の絶景が楽しめるライコット・サライ。泊まった部屋のすぐ前で撮った夕焼けに染まるナンガパルバットとライコット氷河の写真を示す。夕食はパキスタンのカレーであり辛くなく美味しくいただけた。夜には降るような天の川が見えた。中山さんによる星空とナンガパルバットの写真です。



夕食時に翌日の予定について話し合う。フェアリー・メドウ周辺には三ヶ所のナンガパルバットの絶景ポイントがある…という。それらは①森を抜けた先にある氷河壁の上、②フェアリー・メドーズ湖畔の Fairy Meadows Cottages、③氷河に沿って登っていった Beyal Camp の先にある標高 3,667m の尾根上のビューポイント。現地ガイドのイッサさんによると、これまで連れて行った人たちの評価は、この番号順とのこと。③は遠くて希望者のみということで迷っていたが、この言葉で迷わず近場の①と②を選択した。結局③希望者は最も若く元気がある F さん一人だけで、中山さんが連れて行くこととなった。

**6月29日** 早朝に起き出し、朝日に照らされるナンガパルバットを撮ってからフェアリー・メドウ奥のリフレクションが撮れる池へ一人で写真を撮りに行く。ちょうど馬が草をはんでいた。



ライコット・サライの食堂には天才クライマーと呼ばれ、1953年、「魔の山」と呼ばれたナンガパルバットの初登頂を無酸素で成し遂げたヘルマン・ブールの写真や、この後訪れるルパール側のBCの名前にもなった1970年の南南東稜からの登攀でラインハルト・メスナーが登頂を成し遂げた際の登山隊長であったヘルリヒコフファーの写真が飾られていた。

朝食後7時過ぎに出発。まずは全員で②フェアリー・メドーズ湖畔の Fairy Meadows Cottages へ行く。ここには、かつては下の左の写真のようにナンガパルバットのリフレクションが美しい湖があって Google マップにはまだ載っているが、現在では中央の写真のように湖はなくなり草原となっている。ガイドのイッサさんによると、この湖は Fairy Meadows Cottages のオーナーが小川をせき止めて作ったもので、ナンガパルバットを背景としたその美しい景観から観光客を引き寄せたため、フェアリー・メドウの他の山小屋のオーナー達が怒って堰を壊してしまったという。こんなことでフェアリー・メドウの最も美しい景観の一つが損なわれてしまったことは悲しいことである。この近くの林の中には、このコテージのオーナーが作ったという水力発電施設(右の写真)があった。なんと利発なオーナーであろうか。

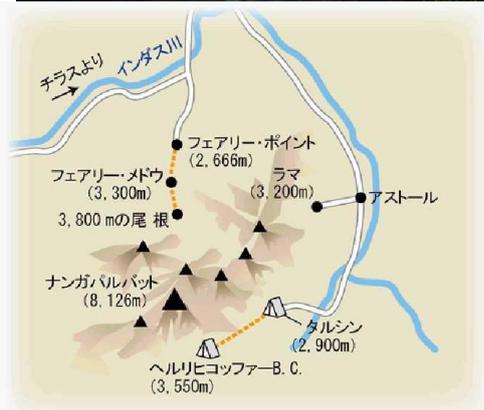


②で記念撮影をした後、中山さんとF氏は③の 3,667m のビューポイントへ出発し、残り全員は森林を散策してから①の森を抜けた先にある氷河壁上のビューポイントへ向かう。ここからはライコット氷河とナンガパルバットが望める。森林にはミヤマリンドウの仲間やヒマラヤ原産の野生イチゴの一種であるフラガリア・ヌビコラ、氷河壁にはマメ科のイワオウギ属の植物アルパイン・スウィートベッチが赤い花を咲かせていた。ここからフェアリー・メドーズに下る途中、Oさんが再び体調不良を訴えたため、頻繁に休憩をとりながらライコット・サライまでたどり着いた。



中山さんとF氏は、結局 3,667m のビューポイントの先の 4,757m のナンガパルバット BC まで登ったそうで、途中のお花畑がきれいだったそうである。同じ日に登ってきてライコット・サライに泊まっていた世界各地のインターナショナルスクールで教えていて現在ブラジルに住んでいるという米国ミネソタ州出身の若い女性は、さらに先の 5,300m の C1 まで登って来たそうである。実にタフな女性である。Oさんが再び体調不良だと聞いて、この女性の現地ガイドが夜にフェアリー・メドーズの医者を選んでくれた。しかしながら、過労という以外は特に新しい情報は得られなかった。

**6月30日** 朝食後、今度は全員でフェアリー・メドウ奥のリフレクションが撮れる池へ写真を撮りに行く。7時半過ぎに下山開始。歩き出して間もなく今度はベテランのYさんの足が止まる。49度の高熱のため、解熱剤を服用させ暫く休んでから馬で下山することになり、中山さんとサブガイドのAさんが付き添う。ほかの全員は往路を 10:10 にフェアリー・ポイントまで下り、四輪駆動車でライコット橋まで戻る。



その後、マイクロバスに乗り換えてアストール経由でタルシン村(2,900m)の宿泊地 Nanga Parbat Tourist Cottage へ。

私は、これまでずっとリーダーの中山さんと同室でしたが、この夜からはYさんの看病のために、中山さんがYさんと同室となることとなる。

# 2025 オンライン講習会案内

今年2025年も、恒例の『オンライン講習会』を4回企画しています。  
詳細が決まり次第、順次『2025 ちばニュース』などでお知らせします。

## <1> ネパール：アマダブラム 6,856m 遠征報告

(2024年10月22日～11月16日 (26日間))

\*講師：平野直子氏 (ちば山の会)

\*日にち：4月24日 (木) 午後7時～8時30分

(講演60分、質疑応答30分)

\*参加者：24名 (講師含む) 午後8時45分終了 視聴多謝!!

終了

## <2> ヘリ救助要請する場合の注意点

\*講師：横山一隆氏 (ちば山の会)

\*日にち：6月26日 (木) 午後7時～8時30分

(講演60分、質疑応答30分)

\*『救助要請から待機・救助まで』を、ヘリコプターで救助する側の立場から「登山者の行動・注意点」などについてアドバイスあり。

\*参加者：25名 (+ビデオ参加：講師) 午後8時35分終了 視聴多謝!!

終了

## <3> 登山計画届システム「コンパス」の紹介

\*講師：インフカム株式会社 代表取締役 今吏靖氏

\*日にち：9月25日 (木) 午後7時～9時

\*テーマ：コンパスと会山行管理の連携等の有用性

登山アプリの利用者が多くなっています。

それをどのようにして会の山行管理に活かしていくか…。

\*「参加申込書」は、『2025 ちばニュース 9月号』と同時配信しました。

\* 申込先：伊東春正 itou2385@yahoo.co.jp

\* 申込締め切り：9月18日 (木)

受講者募集中

## <4> クライミングの安全対策

\*講師：石川昌氏 (全国連 遭難対策部長、船橋勤労者山の会)

\*日にち：11月27日 (木) 午後7時～9時

\*昨年2024年は、クライミング事故が5件発生しています。

# 第18回ふれあいハイク 『三舟山（君津市）』参加者募集

締切が迫っています！ 早めに申し込みを…！

日時：10月26日（日）

集合：千葉駅東口から徒歩3分 旧NTT前 7:45

「JR 我孫子駅前→鎌ヶ谷市役所駐車場→旧NTT前」のバス検討中  
(現地：三舟の里案内所駐車場 9:30)

参加申込：五木田啓文 (E-mail: gokigw2@yahoo.co.jp)

\*各会で取りまとめてお申し込みください (参加申込書参照)

締切日：9月10日（水）

詳細は、『ちばニュース8月号』参照

## 「春のウィークデーハイク」再チャレンジ！

## 『低い やまあいの道』参加者募集

『関東ふれあいの道（千葉県）No.14』千葉労山アレンジコース

日時：11月10日（月） 現地集合・現地解散/日帰り

集合：外房線『東浪見駅』改札口付近 午前8時10分

コース概略：上総一宮駅まで歩きます 約5時間（含む休憩）

<ハイキングコース>

東浪見駅 8:15…8:45 軍荼利山 9:15…峠 9:45（休憩）…

…10:20 洞庭湖…10:30 トイレのあるところ<昼食・洞庭湖散策>11:00…

…11:40 望洋公園…13:00 上総一宮駅 解散（公共トイレは洞庭湖のみ）

問合せ・申込み：田中康男（ハイキング委員会）

Eメール：[dzb05434@nifty.com](mailto:dzb05434@nifty.com)

TEL:090-8331-6858

各会で纏めて申し込みを…

締切日：10月17日（金）

雨で中止となった  
5月の再挑戦！

中止の場合は、3日前の11月7日（金）19:00頃にメールでお知らせします

詳細は、『ちばニュース8月号』参照

## 県連活動予定表

9月			10月		
日付	曜日	県連活動予定	日付	曜日	県連活動予定
1	月		1	水	
2	火		2	木	
3	水		3	金	
4	木		4	土	
5	金		5	日	
6	土	↑ 関東ブロック役員交流会/筑波	6	月	
7	日	↓ 白露	7	火	
8	月		8	水	寒露
9	火	全国海外委員会(ZOOM) 19:30	9	木	役員会 (ZOOM) 19:00-21:00
10	水		10	金	
11	木	役員会 (ZOOM) 19:00-21:00	11	土	
12	金		12	日	
13	土		13	月	スポーツの日
14	日		14	火	全国海外委員会(ZOOM) 19:30
15	月	敬老の日	15	水	
16	火		16	木	理事会 (ZOOM) 19:00-21:00
17	水		17	金	↑ 韓国：紅葉ハイキング (~21)
18	木	理事会 (ZOOM) 19:00-21:00	18	土	クライミング講習 (入門編) 最終回
19	金	韓国：紅葉ハイキング説明会 (鎌ヶ谷)	19	日	
20	土		20	月	
21	日		21	火	↓
22	月	教育遭難対策委員会 (ZOOM)	22	水	
23	火	秋分の日	23	木	海外委員会 (Zoom) 19:30 霜降
24	水		24	金	
25	木	オンライン講習会③ (ZOOM)	25	土	
26	金		26	日	ふれあいハイク
27	土	障害者全国交流集会 全国自然保護講座	27	月	教育遭難対策委員会、川作が委員会(ZOOM)
28	日	クライミング講習 (入門編) ⑤	28	火	
29	月		29	水	全国2025海外山行オンライン交流集会
30	火		30	木	
			31	金	

### 事故発生時の連絡先

各委員会は、25日までに予定を連絡ください。

◎事故一報は事故発生後1ヶ月以内に！

◎全国連盟と県連教育遭難対策委員会の両方にメールまたはファクスで！

全国連盟事務局

メール： jwaf@jwaf.jp

ファクス： 03-3235-4324

県連教育遭難対策委員会

メール： itou2385@yahoo.co.jp (伊東)

メールのみとします

### 連盟費の振込先はこちら！

郵便振替口座 00160-3-481509

千葉県勤労者山岳連盟

(ゆうちょ銀行 〇一九店 口座番号0481509)

発行者： 千葉県勤労者山岳連盟

発行責任者： 安彦秀夫

住所： 〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18 レジデンス幕張台 101号室

電話： 043-306-1190

E-mail： rousanchiba@grape.plala.or.jp

HP： <https://www.cwaf.jp>

**事務所に常駐者はいません**